

研究所所報原稿作成の手引き

1. 研究所所報投稿原稿は、未発表・未投稿のものに限る。他学会等に既発表、定期刊行物や単行本として既刊、あるいはこれらに投稿中のものは研究所所報に投稿できない。
2. 研究所所報に掲載する論文の長さは、刷り上がり4～10頁程度とする。
3. 掲載費用は、原則無償とするが、特殊印刷を要する場合は相応の負担を投稿者に求める。
4. 論文別刷は30部までは無償とするが、追加希望の場合は相応の負担を投稿者に求める。

5. 投稿原稿の執筆要領

1) 論文原稿の作成には、原則として、指定の Word テンプレートを使用する。

1.1 和文原稿

チェックポイント

- 1. 原稿：A4判の横書き、MS-Word（または TeX）を用い1頁当りフォントサイズ9ポイントで26字詰め49行の2段組とする。
- 2. 表題・著者姓名・所属機関
英文タイトル・ローマ字姓名・英語で所属
Abstract（英文100 Words程度）
Keywords（英語で3～5個程度）
- 3. 本文の章・節・項の番号は1., 1.2, 1.2.3と記述する。
- 4. 図・表・写真の説明（Captions）を和英両語で付ける。

1.2 英文原稿

チェックポイント

- 1. 原稿：A4判の横書き、MS-Word（または TeX）を用い1頁当りフォントサイズ9ポイントで49行の2段組とする。
- 2. 英文タイトル・ローマ字姓名・英語で所属
Abstract（英文100 Words程度）
Keywords（英語で3～5個程度）
- 3. 本文の章・節・項の番号は1., 1.2, 1.2.3と記述する。

2) 和文論文の原稿作成の手引き

2.1 原稿と提出

原則として、総合研究機構事務室に用意している研究所所定のテンプレートを使用し、PDFファイルでメディア（各自で準備）に記録して提出するか、電子メールで送付する。

2.2 原稿の構成

2.2.1 標題・著者姓名（+所属機関名）

論文は、次の順序で作成する。表題を書き、改行して著者姓名、続けて括弧内に著者毎に所属学科名を記載する。他大学（機関・会社）等に所属する共著者は、共著者姓名、括弧内に大学名、学部名、学科名（機関・会社名、部局名）を記載する。これらの所属は原則として当該研究を行ったときの所属学科、機関を記述する。現在の勤務先等がこれと異なる場合には脚注に記入する。

例：光ファイバーを用いた-----の開発

山田 公一 （電気工学科）
山田 健次 （☆☆大学工学部電気工学科）
山口 良雄*） （電気工学科）

*) 現在：○○○○○○○ (株) 中央研究所

2.2.2 英文タイトル・姓名（+所属）

和文標題、姓名（+所属）の下に英文でタイトル、フルネームで姓名（+所属）を記載する。

例：The Development of Optical Fiber-----

Koichi YAMADA (Department of Electrical Engineering)
Kenji YAMADA (Department of Electrical Engineering, Kyushu University)
Yoshio YAMAGUCHI (Department of Electrical Engineering)

所属名は以下のように書く。

工学部	Faculty of Engineering
電子情報工学科	Department of Information Electronics
生命環境化学科	Department of Life, Environment, and Applied Chemistry
知能機械工学科	Department of Intelligent Mechanical Engineering
電気工学科	Department of Electrical Engineering
情報工学部	Faculty of Information Engineering
情報工学科	Department of Computer Science and Engineering
情報通信工学科	Department of Information and Communication Engineering
情報システム工学科	Department of Information and Systems Engineering
システムマネジメント学科	Department of System Management
社会環境学部	Faculty of Socio-Environmental Studies
社会環境学科	Department of Socio-Environmental Studies
大学院工学研究科	Graduate School of Engineering
(博士後期課程	Doctor's Program)
物質生産システム工学専攻	Material Science and Production Engineering
知能情報システム工学専攻	Intelligent Information System Engineering
(修士課程	Master's Program)
電子情報工学専攻	Information Electronics
生命環境科学専攻	Life, Environment and Materials Science

知能機械工学専攻	Intelligent Mechanical Engineering
電気工学専攻	Electrical Engineering
情報工学専攻	Computer Science and Engineering
情報通信工学専攻	Communication and Information Networking
情報システム工学専攻	Information and Systems Engineering
システムマネジメント専攻	System Management

大学院社会環境学研究科 Graduate School of Socio-Environmental Studies
 (修士課程 Master's Program)
 社会環境学専攻 Socio-Environmental Studies

福岡工業大学短期大学部 FIT Junior College
 情報メディア学科 Department of Information and Multimedia Technology
 ビジネス情報学科 Department of Business and Information Technology

2.2.3 Abstract (英文要旨)

英文で 100 Words 程度にまとめて記述する。Abstract は、客観的に述べたいことを重点的に記し、常識的内容を排除し、簡潔で明確な表現で標題の繰り返しを避け、一人称を使わないで記述する。主題の取扱を明示する。

2.2.4 Keywords

Abstract の下に 1 行空けて、Keywords を英語で 3~5 個程度記述する。関連の学会が定める Keywords 集等に準じて記述すること。

2.3 本文

2.3.1 記載内容

本文は論理的かつ明確な構想に基づいて記述する。研究を行った理由、これまでの研究との関連性も記述し、使用した手法とテクニックは追試可能となるように記述する。文章はひらがな混じりの口語体とし、常用漢字、アラビア数字を用いる。

2.3.2 見出しの番号付け

章・節・項は下記の例のようにポイントシステムによって記載する。

- 例：1. まえがき
 2.2 数値解析
 3.2.3 実験との比較

項以下の細項は (1), (2) …のように両括弧を用いて細分する。これらを引用する際には、「すでに 2.2 節で述べたように」と書く。

2.3.3 図・表・写真の番号と挿入位置

番号は通し番号とする。

- 例：図 1、 図 2 (a)、 図 2 (b)、 図 3…… ; 表 1、 表 2、……
 Fig.1、 Fig.2 (a)、 Fig.2 (b)、 Fig.3 ; Table 1、 Table 2……

グラフィック表現や写真は図に含める。

2.3.4 謝辞

謝辞として、適用した研究費の種類と年度を記載のこと。特に謝辞を設けず、あとがきなどで同様

の内容を記述してもよい。

例：本研究は本学〇〇〇研究所の〇〇〇年度研究費により実施したものである。

2.3.5 参考文献

本文中では該当箇所の右肩に文献の一連番号を付けて引用する。

例：……することが知られている¹⁻³⁾。

文献は下記 (1) から (2) の間に入る方法で各自の所報論文ごとに統一して記載する。

英文所報論文の引用方法は英文手引きの 3.5 References を参照のこと。

(1) 丁寧な記述例

文献番号、著者名：題目、書名、巻、号、発行年 (月)、pp. ー 。

例：1) 正司秀信、大橋秀男、田原晴男：

翼列の非定常解析 (定常負荷のある場合の圧力、揚力、モーメント)、

日本機械学会論文集 (B 編)、51 巻、465 号、1985 年 5 月、pp. 1377-1383。

(2) 簡略な記述例

文献番号、著者名：雑誌名、巻、発行年、頁。

例：5) 川合敏雄：日本物理学会誌、41 (1986) 227。

2.3.6 付 録

本文の補助的な説明や数式の詳しい導出などを付録として参考文献の後に掲載することができる。

2.4 図・表・写真の説明 (Captions) は、和英両語で記述する。

図・写真は原則としてそのまま印刷するので、鮮明であること。

3) 英文論文の原稿作成の手引き

3.1 原稿と提出

原則として、総合研究機構事務室に用意している研究所所定のテンプレートを使用し、PDF ファイルでメディア (各自で準備) に記録して提出するか、電子メールで送付する。

3.2 原稿の構成

英文タイトル・姓名 (+所属)：和文手引きの 2.2.2 英文タイトル・姓名 (+所属) を参照して所属名等を記入する。

Abstract：和文手引きの 2.2.3 抄録を参照して、100 Words 程度の抄録を記述する。

Keywords：Abstract の下に 1 行空けて、Keywords を英語で 3~5 個程度記述する。

3.3 本 文

見出しの番号付け：章・節・項は下記の例のようにポイントシステムによって記載する。

例：1. Introduction

2.1 Numerical analysis

3.2.1 Comparison with experiments

これらを引用する際には、「As already discussed at chapter 1., …」と書く。

図・表の番号と挿入位置：通し番号 (Fig.1、……Table1、……) とする。

例：Fig.1、Fig.2(a)、Fig.2(b)、Fig.3……；

Table 1、Table 2……

グラフィック表現も写真も図に含める。

3.4 Acknowledgements

適用した研究費の種類と年度を盛込んだ謝辞を記載のこと。

3.5 References

本文中では該当箇所の右肩に文献の一連番号を付けて引用する。

例：The previously published X-ray data¹⁻³⁾ on deoxyribose.....

文献は下記の (1) 詳細な例から (2) 簡略な例 の間に入る方法で各自統一して記載する。

(1) 詳細な記述例

文献番号、著者名：題目、書名、巻、号、発行年 (月)、pp. —

例：1) J. Chiba, T. Inaba and R. Sato : “Radio Communication in Tunnels”

IEEE Trans. Microwave Theory & Tech, MTT-26, Vol.6, March 1978, pp.439-443.

(2) 簡略な記述例

文献番号、著者名：雑誌名、巻、発行年、頁：

例：10) T. Saito, et al. : J. Phys. Soc. Jpn. 54 (1986) 231.

3.6 Appendix

2.3.6 付録を参照のこと。

以 上